

# 2007 年度 立山 & 劔岳縦走合宿報告書

日時 ; 9月4日~7日

場所 ; 富山県立山(標高 2500m)、劔岳(標高 2998m)

目的 ; 北アルプス難関の山に挑む

参加者 4 名

C L 藤田琢也 理 3 S61.05.08 O型  
S L 鈴木健悟 法 3 S60.11.16 O型  
記録 羽根優介 法 3 S61.08.28 O型  
救急 杉原浩太 済 3 S61.10.03 A型

タイムスケジュール

9月3日(月)

JR 京都駅北 新阪急ホテル前 22:30 集合、23:00 出発(富山地方鉄道高速バス)

9月4日(火)

~(バス)~5:00 富山駅 5:44~(富山地方鉄道)~6:32 立山 7:00~(ケーブルカー)7:07 美女平 7:40~(高原バス)~8:30 室堂

室堂 8:45~9:30 一ノ越山荘 9:45~雄山 10:20~10:50 大汝山(標高 3015m)(昼食) 11:30~別山(2880m)12:50~  
劔沢キャンプ場 14:10 着、テント設営、夕食、就寝 17:00 頃

9月5日(水)

起床 3:00、キャンプ場 4:20~劔山荘 4:40~一服劔 5:15~前劔 6:15~7:50 劔岳山頂(標高 2998m)8:20~前劔 9:30  
~一服劔 10:10~11:00 劔沢キャンプ場着(昼食) 12:30~別山乗越 13:10~雷鳥沢キャンプ場 14:00 着、テント  
設営、温泉入浴、夕食、就寝 19:00 頃

9月6日(木)

起床 4:30、雷鳥沢キャンプ場 5:50 発~室堂バスターミナル 6:50 着

室堂 8:00~8:50 美女平 9:00~9:07 立山 9:09~10:10 電鉄富山駅(各自解散)

費用

交通費 ; 京都 - 富山 夜行高速バス 3880 円  
電鉄富山 - 室堂 電車&ケーブルカー & バス往復 6530 円  
富山 - 京都 青春 1 8 切符 2300 円  
荷物積み込み料金 高原バス 300 円 × 2 = 600 円

個人装備 ; ザック(60 以上)、シュラフ(寝袋)、レインウェア、断熱マット、  
ヘッドランプ、着替え(上着など含)、防寒着、飲み物容器、食器類  
予備電池、タオル、帽子(バンダナ可)、非常食、ライター(マッチ)  
ゴミ袋、トイレトペーパー、ティッシュ、折り畳み傘、日焼け止め、お風呂セット、  
身分証、保険証(コピー可)、新聞紙、洗面用具、常備薬、軍手、ザックカバー、  
行動食、サブザック、計画書、ラジオ、お米 4 合

団体装備 ; ステラ 6 テン × 1、鍋セット、ガス缶大 × 4、パーナーヘッド × 3  
調理セット、風防、救急セット、ペグ、

## 食料計画

	朝	昼	夜
一日目	個装	個装	ポトフ
二日目	おでん	スパゲッティ	五目ちらし
三日目	シリアル		

ポトフ... ジャがいも・玉葱・にんじん・ベーコン・コンソメ

五目ちらし... ご飯・五目ちらしの素・きゅうり・シーチキン・のり・マヨネーズ

おでん... レトルトおでん・ウィンナー

スパゲッティ... スパゲッティ+ソース

シリアル... シリアル・ミルクティーの素

## 感想

### 杉原浩太

話に聞いていた険しさよりも実際はきつかった。劔岳を登頂し山の厳しさ体感した。これで、たいていの山は恐怖なしで乗り越えられるのではないかと。来年の夏に向けて体力作りを考えている。 いやー、ほんと山の景色ってすばらしい。

### 鈴木健悟

立山・劔岳縦走登山合宿は、私にとって2度目である。今回は資格勉強のため1ヶ月前からほぼ引きこもり状態であり、体力にかなり不安がありながらの参加となった。更に当日私は長野からの合流となるので深夜1時に車で家を出発、スバル・サンバー(MT)で安房峠を抜けて富山の立山駅での合流であり、そして前日4時間くらいしか睡眠を取れなかったため睡眠不足という、コンディションはあまり良いものではなかった。

しかしながら天気は絶好の登山日和であり、また2回目であり精神的な余裕があったおかげでそれほど大変な思いはしなかった。腰は痛かったが・・・。

そして藤田先生はいつも通り超人的な速さだった。

1日目は順調に終わった。夕飯のポトフもなかなかのものであった。しかし心配なのは翌日の天気である。

翌日、天気は晴れ！台風の心配もあったがそれは杞憂だった。雨を晴れに変えてしまう男、さすがである。さて2日目はいよいよ劔岳登頂である。メンバーの1人の羽根氏は高所恐怖症を理由に見送り、3人で登った。天気は去年と同じでガスっており、今回は風も強かった。しかし前回ほどは恐怖心もあまりなく、難所もなんとか越えられることができた。体力配分もある程度は管理できたため、2人は遅れをとってしまったものの、去年ほど疲労することはなかった。しかし相変わらず腰は痛かった。劔沢からは装備をメインに変え、雷鳥沢キャンプ場へと向かった。そして雷鳥沢に到着し、テントを張った途端に雨が降り出してしまった。間一髪であった。

それからは夕飯のちらし寿司をつくり、冷ます間に温泉へ向かった。内湯は熱くて大変だったが、外湯はいい湯加減だった。そしてテントに帰り夕飯を食べ、就寝となった。一晩中雨と風が吹き荒れ、たびたび目を覚ましてしまった。

3日目。天気は雨。レインウェアとザックカバーを着用しての行動となった。しかし歩く距離は短いので気分的にはラクだった。室堂にはすぐに到着し、あとはバス、ケーブルカー、電車を乗り継いで家まで帰宅した。

今回は悪天候のため当初の日程で開催することができず、このまま計画倒れするんじゃないかと思った中で晴れの日にあたったのは幸運であった。しかしながら私自身体力が年々低下しており、登山技術の向上でなんとかカバーするしかない状況である。これからは体力の向上はもとより、真面目な登山技術の向上が必要であると痛感した。

## 羽根優介

### 1日目

京都駅に集合し、深夜バスに乗って出発。

### 2日目

早朝、富山着。電車で立山駅へゆき、鈴木と落ち合う。その後、ケーブルカーとバスを乗り継ぎ、室堂へ。名水百選の水を飲み、登山開始。一ノ越山荘前で休憩しながら、立山の端にある雄山に到着。僕は疲労困憊。景色は上々だったが、東側はガスで何も見えなかった。その後、立山縦走に入り、大汝、富士折立、真砂、別山と巡るも、ガスのために景色は見えぬ。そのまま剣沢へ下り、テントを張る。夕食後、雷鳥の親子を発見。そして、6時頃就寝。

### 3日目

3時頃起床。朝食をとり、僕以外の三人は劔岳登山に出発。

僕は、高所恐怖症のために劔をあきらめ、別山に登って劔を眺める。最初は一面ガスにおおわれ、風をしのぐ為に岩陰で本を読んでいた。すると、突然ガスが引いたので、北峰に向かって走る。

素晴らしい眺めだった。

また、円形の虹の中心に自分の影がうつる「ブロッケン」を見ることもできた。

写真を撮りながら別山 劔御前を縦走。すごい風で、崖を通る時は恐ろしかった。

その後、「また登るのかぁ」と思いながら剣沢へ下山。皆と合流し、昼食をとり、テントをたたんで出発。

劔御前小屋を経由して、剣沢とは立山をはさんで反対側の雷鳥沢に降りる。

テントを立てている途中、鈴木が「10分ももたないかも」と空を見て言ったが、まさに10分後に雨が降り出す。

適当に言っただけだろうけど。が、夕方にはやんだので、皆で温泉へ。

暑すぎて入れないので水を足すも、なかなか温度が下がらず、日焼けの痛みのためにゆっくりはつかれなかった。

その後、夕食を食べて就寝。その前に雨が降り出して風も吹き出す。そのため、次の日には切り上げて帰ることとなる。

### 4日目

4時半起床朝食をとり、テントをたたむ。6時半まで地獄谷前で待ち、通行禁止が解除されてから地獄谷を前進。

ミクリガ池前面の最後の急坂を登り切り、室堂へ到着。

雨の中、立山の水を汲み、お土産を買って下る。立山駅までバスとケーブルカーで降りた後、京都へは帰らない藤田、鈴木と別行動となり、我々は砂防博物館へ。

その後、富山で寿司を食って帰京。途中、湖西線にて大きな二重の虹を見る。7時半に京都駅につき、トンカツを食べてから帰宅。

以上が今回の体験記です。今回は、前回以来のトレーニングが効いたのか、ダウンはしませんでした。皆から見ればまだまだでしょうが、少々頑張れるようになりました。疲れに慣れる、ということもできるようになった感じがしました。また、メインザックを担いでの本格登山はこれがはじめてです。これからも精進したいと思います。

## 藤田 琢也

行く前は天気予報が微妙で、どうなることかと思っていましたが、行ってみたら全く問題なく、最終日に降られただけでした。

結局、立山縦走は全員が、劔岳には羽根君を除く三名が登頂できました。

劔は 登るときには昨年同様、ガスってしまい視界は利かなかったですが、山頂では時々雲が抜けて素晴らしい景色を望め、下山中は常に晴れている状態で、後ろに劔岳本峰を控えて最高の気分でキャンプ場まで下ることができました。

ただ、残念ながら羽根君は高所恐怖症のため劔は断念してもらうことに...。代わりに隣の別山や劔御前に登ったようですが、そちらからの劔の景色はすごかったようで、十分に劔を満喫してくれたと思います。

自分は昨年に登ったという経験もあって、去年と同じように岩場を楽しんで歩いていました。やっぱり剣は面白い！

9月の天候として8時くらいまではガスっていて、その後晴れだし、11時頃曇りだすというのが昨年と今年の二回で把握できたので、来年以降は8時頃に山頂に着けるような計画を立てれば良いと思います。

来年も行きます。